

徳島県青年海外協力協会 会長賞

「国際性とは」

【徳島県】

吉野川市立山川中学校

3年 平野 京香

私は最近、「国際性」とは何なのだろうかと考える時があります。今の日本では、さまざまな外国の文化が入ってきているし、外国から日本にやってきて働いたり、活動したりしている人たちもいます。町や、わたしたちの地域の周りでも外国の人たちを見かけるのがあたりまえになってきました。

しかし、この世界の中から、人種差別や外国人差別がなくなったわけでは決してありません。白人や黒人などといった言葉は私たちには直接関わりはないと思うかもしれませんが、自分達は差別には関係ないと思っていても何も解決することはないと思うし、差別というのはわたしたちのすぐそばにあるものだと思います。

私の住んでいる地域には、中国などから日本へやってきて、仕事をもらい、住みこみで働いている人たちがいます。会って話をしたことはありませんが、学校の登下校中に見かけたりしたことがあります。この前、家族と一緒に出かけたときに、中国の人たちがいました。その人たちを見て、バカにしたり嫌そうな顔で見たりしていたような人もいました。

私は、なんでそんなことをするのだろうと思い、ちょっと悲しく思いました。それから、「中国人はケチだ」とか「家の畑の野菜を勝手に採って行った。」というようなことも聞きますが、個人個人の問題を国や国民の固定概念として決めつけることは間違っていると思います。このまちがった考え方は昔からあって、今もまだ消えない大きな問題です。

私は、この問題を解消していくことが、これからの日本の課題の一つだと思います。しかし、解消といっても、私たちが何もしないままでは何も解決することはできません。小さなことからでも、私たちにできることを、少しずつやっていかなければならないと思います。

先日、国語の授業で「温かいスープ」という文章を読みました。その文章には「国際性」の基本は外国語の能力や学芸の才気ではなく、相手の立場を思いやる優しさやお互いが人類の仲間であるという自覚、求めるところのない隣人愛としての人類愛なのだということが書かれていました。私はこの言葉がとても心に残っています。これからも外国のものや人に対して排他的にならず、人類の仲間として互いに理解し、認め合い、すべての人たちが気持ちよく生活していけるような社会を作ることが大切なのだと思います。